

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
山脇美術専門学校	昭和51年6月1日	落合 三喜	〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人山脇服飾美術学院	昭和22年11月17日	清水 カツ子	〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	美術専門課程	スペースデザイン科	平成29(2017)年度	-	令和5(2023)年度																													
学科の目的	建築やインテリア・エクステリアデザインなどスペースデザイン分野に従事しようとする者に、企業等と連携の上で専門性の高い知識及び技術・技能を修得させるとともに感性豊かな即戦力を育み社会に貢献出来る人材を輩出する事を目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	住宅設計、店舗デザイン、インテリアデザインなどを幅広く学修し、卒業と同時に二級建築士の受験資格が付与され、商業施設士、インテリアデザイナーなどの資格取得を目指している。																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いざれかに記入 3,150 単位時間 ○○ 単位	507 単位時間 ○○ 单位	168 単位時間 ○○ 单位	180 単位時間 ○○ 单位	0 単位時間 ○○ 单位	2,295 単位時間 ○○ 单位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
54人	24人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr> <td>■卒業者数(C)</td> <td>7</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数(D)</td> <td>7</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数(E)</td> <td>7</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■地元就職者数(F)</td> <td>6</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率(E/D)</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td> <td>86</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■進学者数</td> <td>0</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■その他</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>(令和6年度卒業者に関する令和7年10月14日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 店舗デザイン会社、リフォームプランナー、施工管理会社、ディスプレー会社 他</p>						■卒業者数(C)	7	人	■就職希望者数(D)	7	人	■就職者数(E)	7	人	■地元就職者数(F)	6	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	86	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	7	人																																
■就職希望者数(D)	7	人																																
■就職者数(E)	7	人																																
■地元就職者数(F)	6	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	86	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: #REF!</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: ○○○○ 受審年月: ○年○月 評価結果を掲載したホームページURL ○○○○</p>																																	
当該学科のホームページURL	#REF!																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいざれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>3,150 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>192 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>105 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>3,024 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>192 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>105 単位時間</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>0 単位時間</td> </tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr> <td>総単位数</td> <td>○○ 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td> <td>○○ 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の単位数</td> <td>○○ 单位</td> </tr> <tr> <td>うち必修単位数</td> <td>○○ 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td> <td>○○ 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td> <td>○○ 单位</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td> <td>○○ 单位</td> </tr> </table>						総授業時数	3,150 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	192 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	105 単位時間	うち必修授業時数	3,024 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	192 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	105 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	○○ 单位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	○○ 单位	うち企業等と連携した演習の単位数	○○ 单位	うち必修単位数	○○ 单位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	○○ 单位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	○○ 单位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	○○ 单位
総授業時数	3,150 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	192 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	105 単位時間																																	
うち必修授業時数	3,024 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	192 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	105 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総単位数	○○ 单位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	○○ 单位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	○○ 单位																																	
うち必修単位数	○○ 单位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	○○ 单位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	○○ 单位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	○○ 单位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		4人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人																																
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																
計		4人																																

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学は建学の理念である「美と創造の精神」の完成を目指し、豊かな情緒と個性的な想像力を身に付けた人材の育成を教育目標としている。この目標達成のために、基礎から専門に至る知識・技術を体系的に修得させる教育課程を編成する。また、業界の最新動向を継続的に把握しながら各企業で即戦力として活躍できる高度で実践的な能力を養成することを重視する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は校長のもとに設置し、本校の教育課程や職業実践、企業連携に関する事項を検討し、意見・要望を提言する諮問機関としての役割を担う。委員会で出された意見・要望は、教務課が担当部署として具体的な検討を行う。その結果は、学科長と教務課所属長が調整・協議したうえで校長の許可を経て最終決定され、実際の学校運営に反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
山田 祐照	一般社団法人日本空間デザイン協会 理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日	①
田崎 冬樹	横浜美術大学美術学部美術デザイン学科 准教授	令和7年4月1日～令和9年3月31日	②
伊藤 庄平	株式会社シロクロ	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
左 知子	株式会社HASAS	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
樋口 誠	株式会社ネオタイト建築計画	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
相庭 聰	株式会社ケイ・ウノ	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
臼井 康祐	株式会社スーパー・ギルド	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
落合 三喜	山脇美術専門学校 校長(全体会委員長)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—
清水 裕子	同 スペースデザイン科 科長(分科会委員長)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—
篠原 一郎	同 教務課 部長(スペースデザイン科 講師)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—
福澤 清子	同 教務課 係長(スペースデザイン科 助手)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月6日 15:00～17:00

第2回 令和7年2月25日 15:00～17:00

上記の2回を実施

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

〈独自価値の明確化と差別化〉

就業直結の実践教育を強みとしつつ、特に本校のスペースデザイン科ならではの「職人」に相当する技能を定義し育成する必要がある。

〈コミュニケーション能力の強化〉

学生の図面化能力は高いが対話力が課題。傾聴と対話を伴うグループワークや発話練習を増やし、キャリア設計と連動させて指導する。

〈教育の拡充〉

早期のデザイン体験、職人現場での越境型実習の導入、および現実感のある課題設計(実地見学との連携)を推進する。

第2回

〈企業との連携授業の強化〉

現状の5社との連携を、レポート提出だけでなく、より深く強い実践的な連携に発展させたい。

〈チームワークの必要性〉

学生に科や学年を超えた連携プロジェクトを通じて、社会で求められるチームワークの経験を積ませる必要がある。

〈活用と動機付け〉

連携プロジェクトを「山脇祭」などのイベントと結びつけ、実績として活用することを提案。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「職業教育に係る連携授業の実施に関する内規」に基づき、以下の2点を目的とした教育を実施する。

- ①関連分野の職業に対する勤労観の醸成および継続的な学習意欲の向上。
- ②専門分野の実務に必要な知識、技術、技能の修得または向上。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本授業は、以下の項目に基づき、企業等と連携して実施する。

①事前の確認・共有

講義・実技指導の内容、および学生の学習成果を測る評価指標について、事前に学校(授業科目の担当教員)と企業担当者で協議・確認を行う。

②授業の運営と指導

授業運営は、企業担当者と授業科目の担当教員が連携して行う。企業担当者より、専門性の高い助言や実践的な技術指導を受ける。

③学習成果の評価

評価は、企業担当者からの評価と助言を取り入れ、以下の項目に基づき総合的に行う。

「進行チェック時における成果物の完成度」、「テーマ設定とプレゼンテーション資料の充実度・完成度」、「企画プレゼンテーションの発表内容」

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
エクステリアデザイン	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	住宅及び建築物周囲の最低限の緑化計画が出来るよう、植物の知識から計画まで課題を制作しながら理解する。	西武造園 株式会社
住宅概論	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	住宅の室内環境について温熱環境の基礎知識を座学で学び、そこで得た知識を校外の施設で実体験することにより、温熱環境の重要性を理解し、室内環境の設計技術を学ぶ	株式会社 LIXIL
照明デザイン	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	本授業を通じて、既存の概念にとらわれず多様な照明事例を見学し、「照明とは何か」「デザインの本質は何か」を深く探究する。これにより、業界や職種に関する知識を深め、将来の就職の選択肢を広げることを目指す。	株式会社 ディクラッセ
インテリデザインA	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	インテリアデザインの計画に必要な家具配置に必要な専門知識を得る。	株式会社 ブシ
卒業制作	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	卒業制作の制作過程において、実務経験豊かな講師から指導を受ける事により、実践で通用する技術と知識を習得する。	株式会社 ネオタイド建築計画

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「山脇美術専門学校教員研修内規」に則り、教員に対し現在就いている教育職又は、将来就くことが予想される教育職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教員の能力及び資質の向上を図ることを目的とする。教員に対する研修の必要性を把握するとともに、教員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮し、研修計画に基づく研修を実施する。

研修の参加については、職務内容や経験年数を考慮したうえで、校長が指示する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： JAPANTEX 2024 セミナー「春らしさが変わるインテリアの力」 連携企業等： 一般社団法人日本インテリア協会

期間： 令和6年11月21日(木) 対象： スペースデザイン科の教職員

内容 インテリアが人々の暮らしや生き方を変える可能性に着目し、様々な事例を通してインテリアコーディネーターの役割や、インテリアで大切にすべきことを解説。講師は、CHIC INTERIOR PLANNING主宰の荒井詩万氏。

研修名： Vectorworks Design Day 講演： Vectorworks 2025新機能 連携企業等： ベクターワークスジャパン株式会社

期間： 令和6年12月5日(木) 対象： スペースデザイン科の教職員

内容 『Vectorworks 2025』の発売に先駆けて新機能をわかりやすく紹介
オンスクリーンビューコントロール マウスクリックで直感的にビューをコントロールできるナビゲーションが搭載(動画で観る)、BIM/建設の分類、Spotlightの機能強化、GDTFファイルマッピング、オブジェクトレベルの表示設定など

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 実践行動学セミナー「夢現実のための実践行動学」 連携企業等： 一般社団法人 実践行動学研究所

期間： 令和6年6月27日(木) 対象： 全教職員

内容 学生の夢の実現、目標達成に必要な心の在り方や達成の技術と技能を身に着ける。

研修名： アサーティブコミュニケーション
～自他尊重のコミュニケーション～ 連携企業等： 公益財団法人東京都私学財団

期間： 令和7年1月14日(火) 対象： 全教職員

内容 様々な教育現場の教職員とグループワーク、ロールプレイングを行いアサーティブコミュニケーションを学ぶ。
アサーションの方向性、アサーション3つの表現、人間関係8つの憲法、レベルに応じた主張法など。

研修名： 文章力向上講座 連携企業等： 公益財団法人東京都私学財団

期間： 令和7年1月28日(火) 対象： 全教職員

内容 文書作成におけるさまざまなルールを学ぶ。論理的な文章をつくるステップ、伝わる文章にするテクニック、報告書の書き方トレーニング、相手に配慮するメール術など。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	インテリア・建築関連のセミナー	連携企業等:	各種団体や企業が主催
期間:	令和7年4月から令和8年3月の間	対象:	スペースデザイン科の教職員
内容	インテリア・建築に関する基礎知識の習得、関連職種の能力向上等を目指した研修。		
研修名:	3Dグラフィックソフト関連のセミナー	連携企業等:	ベクターワークスジャパン株式会社
期間:	令和7年4月から令和8年3月の間	対象:	スペースデザイン科の教職員
内容	3Dグラフィック系のソフトに関わる、最新情報やスキルアップを図るセミナーやワークショップなど。		
研修名:	デザイナー向けAdobeアプリケーション関連のセミナー	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和7年4月から令和8年3月の間	対象:	全教職員
内容	Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorなど操作に関するここと、作業効率が上がる最新の情報提供など、具体的なデモンストレーション交えながらのセミナーなど。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	PSAフィードバック講習会	連携企業等:	株式会社ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間:	令和7年7月下旬	対象:	全教職員
内容	PSAパーソナリティ診断を学生に実施し、診断結果をもとに自身の個性を理解し、活かし方のヒントを得る。一方で教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用し、学生とのより良い関係性を築く方法を学ぶ。講習後には意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法について教授する。		
研修名:	メンタルヘルスサポート、コミュニケーション、コーチング研修など	連携企業等:	各種団体や企業が主催
期間:	令和7年4月から令和8年3月の間	対象:	全教職員
内容	コミュニケーションやメンタルヘルスケアに関する研修やセミナーに1~2回受講予定。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、学校が自己点検・自己評価を行う。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。また卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)学校運営(3)事業計画(4)運営組織
(3)教育活動	(8)教育活動(9)教育方法・評価等
(4)学修成果	(10)成績評価・単位認定等(13)学習成果(14)資格・免許の取得率
(5)学生支援	(11)資格・免許取得の指導体制(16)学生支援(18)学生相談(19)学生生
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(25)学生の募集と受け入れ
(8)財務	(28)財務(29)予算・收支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関係法令・設置基準等の遵守(33)個人情報保護
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)国際交流	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者より「どのような資格・免許が取得できるが、そのためにどのような指導がなされているかを発信するとよい。」との意見をいただき、ホームページへの分かり易い表現の工夫をしたほか、学校案内などの広報媒体への積極的な掲載に努めることとした。評価の低かった施設・設備について、経年劣化に対する安全対策に努め、トイレ・階段などのユニバーサルデザイン化を検討したい。また地域貢献のために「山脇ギャラリー」の活用について検討したい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
久保寺健郎	九段振興組合 理事	令和7年4月1日～令和7年3月31日(3年)	地域等委員
松尾貴之	株式会社スピリッツ プロデューサー	令和7年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
今川清信	杜陵印刷株式会社 課長	令和7年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
須藤加代子	会社員	令和7年4月1日～令和7年3月31日(3年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/07gakkokankeishahyoka.pdf>

公表時期: 令和7年10月22日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教職員による学校の理念・目標に照らして自らの教育活動を評価した「自己評価」、及び「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に対応した項目を公開することにより、企業等の学校関係者から有益な助言を得ることで教育の質的な向上を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1, 学校の概要、教育目標
(2)各学科等の教育	2, 教育方針と各学科の教育
(3)教職員	3, 教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4, キャリア教育と就職支援、職業実践教育
(5)様々な教育活動・教育環境	5, さまざまな教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	6, 学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	7, 学費と経済的な支援
(8)学校の財務	8, 財務情報
(9)学校評価	9, 学校評価
(10)国際連携の状況	○○○○○
(11)その他	○○○○○

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/yamawaki-basic-information.pdf>

公表時期: 令和7年10月22日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)。

授業科目等の概要

	#REF!			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技				
1	○			インテリアデザインA	実際の建物の実測から図面を描き、インテリア計画を行う上で必要な空間を把握する。身の回りの動作寸法を理解して、テーマに基づいた空間のデザインを行う。各自の個室を対象とし、テーマの設定をし、インテリア計画を行い、プレゼンテーションボードを作成する。□	1通	84		△		○	○	△	○ ○	
2	○			住宅デザインA	生活空間として、機能的で快適な空間を計画する基本知識を学ぶ。□企業との連携授業としてショールームでの商品説明を受け、課題制作に活かす。□	1後	42		△		○	○		○	
3	○			建築基礎製図	木造住宅の各種図面をトレースする事で、建築の構成、構造、材料を理解する。	1前	42		△		○	○		○	
4	○			建築製図A	建築の構成、計画、構造、材料を理解し建築製図を手描きで描く。	1後	42		△		○	○		○	
5	○			2D CAD	CADの環境設定から基本操作を学び、製図、プレゼンテーションにまでつなげて行きます。	1後	42		△		○	○		○	
6	○			住宅概論	建築設計の基礎となる住宅について学び、空間デザイン学習への足がかりとする。□住宅は個人の資産であるが、公共の資産でもある。個から全体を考えられる視点を学ぶ。□	1前	42		○	△		○		○ ○	
7	○			建築パース	イメージした空間や形をパースで描く。基本ルールから上手に早く描くコツを学ぶ。	1後	42			△	○	○	○		
8	○			色彩A	テキスト、ワークノート、カラーカードを用いて、色彩検定3級程度の色彩の基礎を理解します。身の回りのものから、さまざまな色彩の役割を理解します。理論を実践に置き換えた課題の制作する。	1前	42		○	△		○		○	
9	○			PC基礎	PhotoshopとIllustratorの基本操作を通して、コンピュータでグラフィック制作に必要な基本操作、基礎知識を学ぶ。□また、随時3年間課題制作等ができる様にコンピュータのセットアップを行なながら、専門用語等を紹介。□	1前	42		△		○	○	○		
10	○			インテリアデザイン史	家具デザインの時代変遷からスペースデザインを考える。世界各国、様々な時代にデザインされ、使われて来た家具は現代の空間にも使われている。デザインすることの大切さ、50年、100年生きるデザインの素晴らしさを伝える。特徴の捉え方なども含め、過去から学ぶり・デザインも学ぶ。	1前	24		○		△	○	△	○	
11	○			インテリアコーディネート	インテリアスタイルを理解すると同時に表現力につける。	1前	18		△		○	○	△	○	
12	○			模型	図面を読み取り立体を作り上げる。3次元でインテリア・建物のデザインを計画する。□図面だけでは理解できない立体や空間を把握するためのプレゼンツールとして模型作成の必要性を学ぶ。□	1後	42		△		○	○		○	
13	○			発想演習	デザインの発想に必要な、既成概念にとらわれない柔軟な考え方を、演習を通してトレーニングする。□言葉からイメージした空間や形を表現する。□	1前	42		△		○	○		○	
14	○			デッサン・ドローイング	デザインに必要な描写表現の基礎を学ぶ。トレーニングを中心に、トレーニングをアウトプットする演習課題を制作。	1前	42			△	○	○		○	
15	○			平面構成・立体構成	デザインの基礎となる造形感覚や構成力を養う。	1前	42			△	○	○		○	
16	○			建築構造	素材の持つ性能を講義・模型制作・破壊実験を通して理解する。	1後	42		○		△	○		○	
17	○			PC表現基礎	IllustratorとPhotoshopを使用し、Illustratorではベジェ曲線を使って自由に描画ができるように、また、Photoshopでは画像の合成や補正などができるようになります。□解像度の理解を深め、概念を理解する□	1後	42		△		○	○		○	
18	○			写真演習	写真撮影の基礎に関する講義と演習、及自然光とライティングの理解。様々なビジュアルイメージを形に出来るように、撮影と講評を重ねレベルアップを目指す。□	1後	42		△		○	○	△	○	
19	○			総合学習1	展覧会などの見学、見学前の事前学習、見学レポートの制作。□授業課題のまとめ。□	1通	84		△		○	○	△	○	
20	○			就職講座1	就活に関する基礎的な準備資料を早期に完成させる。□経団連の新卒採用調査1位のコミュニケーションスキルを基礎、デジタル、実践、チームビルディングの観点から学ぶ。□	1通	27		○	△		○		○	
21	○			進級制作1	1年次に習得した技術知識の集大成として、進級制作を行う。□住宅デザインから引き継いで課題の設計デザインを行い、プレゼンテーションまで完成させる。□	1後	##		△		○	○		○	

22	○	課外授業	【前期】入学式・ガイダンス、研修旅行、学生作品展□ 【後期】山脇祭、卒業・進級制作展、卒業式など□	1 通	60			○	○	△	○	○
23	○	インテリアデザインB	自分自身の生活スタイルをもとに与件をまとめ、生活スタイルを客観的に理解する。□ 様々な条件を解決させながら住空間を設計する。□	2 前	42		△	○	○			○
24	○	デザイン演習	設計条件を細分化し、その課題を短期間に仕上げることで問題解決能力の能力向上（スピード）を目指す。□ 課題により時間数は増減する。□	2 通	84		△	○	○			○
25	○	住宅デザインB	『都市に暮らす小さな住まい』□ 三十代の夫婦と小学校低学年という構成の家族が暮らすための家を設計する。□	2 前	42		△	○	○			○
26	○	建築デザインA	課題「多世代家族のための住宅」の基本計画。	2 後	42		△	○	○			○
27	○	店舗デザインA	トレンドファションを軸とした店舗のデザインから図面制作、仕様書までを行う。 図面制作については計画全体を把握し、下地から仕上までを正確に手書きで行う。□ 店舗は都心に建つテナントビルRC造/S造とする。	2 前	42		△	○	○			○
28	○	店舗デザインB	飲食を中心の空間デザインを学びます。 店舗立地は都心としRC造・S造・木造2階建を基本とし建物から内装までを設計する。□	2 後	42		△	○	○			○
29	○	建築製図B	CAD (Vector Works)による建築設計図書の作成技術を学ぶ。	2 前	42		△	○	○			○
30	○	3D CAD A	3DCADに必要な基本的な知識と操作を学ぶ。	2 通	84		△	○	○			○
31	○	立体造形	実寸モデルの制作を通し立体的な造形感覚や構成力を養う。□ 造形材料を知り、その性質を理解する。□	2 前	42			○	○			○
32	○	建築法規	建築に関連する法規の体系を理解し、法規の読み取り方を学ぶ。□ 建築基準法については資格取得の為の基礎学習とする。□	2 後	42		○			○	△	○
33	○	建築材料学	建築材料に関連する素材を理解し、そのサイエンスからデザインへの発展を学ぶ。□ 建築材料について資格取得の為の基礎学習とする。□	2 前	42		○			○	△	○
34	○	CG A	コンピュータを活用した、プレゼンテーション表現、技法、技術の習得。	2 後	42		△	○	○			○
35	○	環境デザイン	環境デザインとはどのようなものか学ぶ。□ 人と建築、地域、地球環境の関係を知り、環境と調和したサスティナブルな建築を設計するための基礎を学ぶ。	2 後	18		○		△	○		○
36	○	現代建築論	現代建築の源流である西洋ルネッサンス以降近現代に至る広い範囲で、建築思潮上重要と思われる作家と作品を重点的に取り上げ、建築を設計する視点から解説し、その上で現代建築を解釈し、空間のイメージの多様性を学んでいく。	2 後	24		○		△	○	△	○
37	○	PC表現	IllustratorとPhotoshopを使用し、美しいレイアウトができるとともに、適切な画像処理（合成・補正）が行えるようにする。両方のソフトを使って、正しいデータの作成と保存形式を理解する。	2 前	42		△	○	○			○
38	○	ウインドウディスプレイ	空間デザインにおけるショーウィンドウの役割と魅力を理解してもらい、プロセスと実践で演出方法を学ぶ。専門店（商品）、企業（イメージ）の2つの異なるタイプのショーウィンドウを発案から制作まで行いショーウィンドウを完成させる。	2 後	42		△		○	○		○
39	○	研究制作2	授業課題、またはコンペ課題などを各自の自由で制作を行う。□ 必要があれば授業のフォローとして使う。□	2 後	42			○	○	△		○
40	○	レポートファイ尔制作・見学2	展覧会などの見学、見学前の事前学習、見学レポートの制作。□ 授業課題のまとめ。□	2 通	168		△	○	○	○	△	○
41	○	就職講座2	・就活に関する基礎的な準備資料を早期に完成させる ・自己PR、志望動機、業界職種研究、履歴書完成に向けて、自分自身の特性の理解や業界職種の知識を深める	2 通	168		○	△		○		○
42	○	進級制作2	1~2年次に習得した技術知識の集大成として、進級制作を行う。 建築デザイン、店舗デザインから課題を選択し設計デザインを行う。	2 後	##		△	○	○			○
43	○	課外授業	【前期】入学式・ガイダンス、研修旅行、学生作品展□ 【後期】山脇祭、卒業・進級制作展、卒業式など	2 通	210			○	○	△	○	○
44	○	建築デザインB	実施設計図を作成する。	3 前	211		△	○	○	○	△	○
45	○	構造力学	建築構造計画において、力が建物に作用する基礎的仕組みを理論的に学び、実際の建築を設計する際に役立つようを目指す。 演習は二級建築士試験構造力学程度とする。	3 後	212		○			○		○

46	○		建築施工	建築施工に関する技術を理解して建築デザインの成り立ちを学ぶ。 建築施工について資格取得のための基礎学習とする。	3 前	213	○			○	△	○
47	○		エクステリア デザイン	住宅及び建築物周囲の最低限の緑化計画が出来るよう、植物の知識から計画まで課題を制作しながら理解する。	3 前	214	△	○	△	○	○	○
48	○		照明計画	基本から具体的な手法まで、インテリア空間での照明の役割を学んでいきます。	3 前	215	○	△		○	△	○
49	○		照明デザイン	光の特性を理解し、それを生かした表現を作品として製作する。 各自個別に対応し、製作案をまとめる。 優秀な作品は11月開催の「アカリイマージュ学生展(予定)」への出品がある。	3 前	216	△	○	○	△	○	○
50	○		設備計画	建築環境工学を学び建築を計画するための基礎知識を得る。 建築物における設備の概要や役割について学ぶ。 学んだことを踏まえ観察し考える。□	3 後	217	○	△		○	△	○
51	○		材料研究	建築材料学を基本として、身边にある素材を集め、その特性を整理する。	3 後	218	○			○	△	○
52	○		家具デザイン	1. 家具を3面図としてしっかりと捉え、どう視覚化するかを学ぶ。 2. 特定の人物を想定しコンセプトに基づいた自由な発想、素材から家具デザインを考える(模型) 3. 使用場所を想定し、木材メインでの原寸製作を考慮した家具(ツール)をデザインし製作する(原寸) ※2,3はどちらかを選択	3 前	219	△	○	○			○
53	○		ディスプレイ デザイン	ディスプレイデザインにおける「展示空間」を展示会のブースデザインを通して理解し、企画、計画、デザイン、プレゼンテーション方法を学ぶ。 さまざまな業界(展示会)と企業(出展者)出展商品を選定およびリサーチし、展示品を引き立てる魅力ある空間装飾と展示手法を学ぶ。 コンセプト、ゾーニング、装飾デザイン、CAD図面、3Dイメージベースを企画書にまとめる。	3 後	220	△	○	○			○
54	○		デザインビジ ネス論	実業の空間ビジネスの中で、デザインワークの実務はクリエイティブ活動全体の一部分でしかない。 デザインのビジネスプロセスをマーケティングを通じた広い視野で見渡すことによってデザイン能力・知識を必要とする仕事をすることを多く知り、その役割とクリエイティブ全体を意識する力を身につけることで実社会において提案力と即戦力を養う。□	3 前	221	○		△	○		○
55	○		CG B	コンピュータを活用した、プレゼンテーション表現、技法、技術の習得。	3 前	222	△	○	○			○
56	○		3D CAD B	3DCAD-Aで身につけた基本を踏まえた上で、さらに高度な知識と応用操作を学ぶ。	3 後	223	△	○	○			○
57	○		研究制作3	授業課題、またはコンペ課題などを各自の自由で制作を行う。 資格試験用の補講授業などを行う。□ 必要があれば授業のフォローとして使う。	3 後	224	△	○	○			○
58	○		色彩B	様々な分野で多様性が求められる時代、色覚の多様性に配慮した誰もが見やすい配色について学ぶ。 建築士等資格試験で出題される「マンセル表色系」をはじめ、UCに関係する表色系や規格について理解する。 インテリアの色彩、環境色彩については色彩検定2級範囲も含む。	3 後	225	○		△	○		○
59	○		レポートファ イル制作・見 学・就職講座 3	展覧会などの見学、見学レポートの制作。 「就職講座3」 各自の課題を明確にして、課題に応じた対策をとる。個人模擬面接など。	3 通	226	△	○	○	△		○
60	○		建築計画ゼミ	施設内容、テーマを各自が設定し、その建物の基本設計をする。	3 通	227	△	○	○			○
61	○		店舗計画ゼミ	図面の読解力を身に付け、プロを目指す高度な図面制作力を養う。 立地条件及び周囲の環境を配慮し、複合的商業施設設計画を創造する。仕上材、設備等の細部までを把握し、図面制作する。	3 後	228	△	○	○			○
62	○		卒業制作	1~3年次に習得した技術知識の集大成として、卒業制作を行う。 建築計画、店舗計画から課題を選択し設計デザインを行う。	3 後	229	△	○	○			○
63	○		課外授業	[前期] 入学式・ガイダンス、研修旅行、学生作品展□ [後期] 山脇祭、卒業・進級制作展、卒業式など□	3 通	230			○	○	△	○
合計					63	科目	3276 単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法				授業期間等		
卒業要件 : 出席率が80%以上であること、課題の提出が100%であること、学年の全科目の成績が60点以上であること、学費等納付金が完済であること。				1学年の学期区分		2期
履修方法 : すべての必修科目と所定の選択科目の履修				1学期の授業期間		18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。